

沼まつり

◆開催日 令和元年10月20日(日)

※無料開園日(駐車料別) ※荒天時のみ中止(延期なし)

◆時間 11:00~13:30

◆会場 あざみくぼ沼(運動広場横 南口・中央口より徒歩約20分)

◆参加費 無料

◆対象 <魚とり会> <うなぎの掴み取り>
第1部: 中学生以上 幼児・小学生
第2部: 大人



《スケジュール》

10:00 第1部・第2部 受付開始
11:00 開会式
11:15 第1部 網類による魚とり会
11:20 うなぎの掴み取り 受付開始
12:20 うなぎの掴み取り
12:30 第2部 ヤスなどによる魚とり会
13:30 終了

《注意事項》

- 漁具および魚の容器は持参となります。
- 漁具を使用される際は、まわりにお気をつけ下さい。
- つかまえた魚はお持ち帰り下さい。
- 裸足で沼には入れません。
- シャワー設備はございません。
- 水深や水温、ご自身の体力を考えたうえで、本イベントにご参加下さい。

主催: 国営武蔵丘陵森林公園
協賛: 滑川町、滑川町観光協会、比企丘陵農業遺産推進協議会
協力: 滑川町、比企丘陵農業遺産推進協議会、滑川町商工会、
特定非営利活動法人比企自然学校、東秩父和紙の里、
生活介護事業所たけのこ、国立女性教育会館 他

◆お問い合わせ

国営武蔵丘陵森林公園
森林公園

国営武蔵丘陵森林公園 管理センター
TEL: 0493-57-2111
HP: <https://www.shinrinkoen.jp>

森林公園沼まつりとは

森林公園のある埼玉県比企郡滑川町は、全国的にも沼（ため池）が多い地域です。園内にも41の池沼があり、現在でも周辺の水田灌漑用水として利用されています。これらの沼は、ほとんどが江戸時代に稲作のため多くの人々の努力により構築されたもので、代々維持・管理されています。

沼は、大雨や地震により決壊しないよう6～7年おきに沼普請（ぬまぶしん）といわれる補修工事を行います。樋（水門）の伏せ替え、内はぎ・外はぎ（堤の補修）、かさあげ（底ざらい）など沼下（沼の水をつかっている人々）が集まって作業が行われました。現在のように建設機械のない時代なので、どの作業も大変な苦勞だったようです。そのなかで楽しみの一つが「魚とり」です。日照りで沼の水がなくなったときや沼普請で水を抜いたときなどは、各家々から漁具を持って沼に集まり、大勢でどろんこになって魚のとり会を行いました。

森林公園沼まつりは、この魚のとり会を地元の人々を中心に、昔ながらの方法で行う行事です。この機会にぜひ伝統的行事をご覧いただき、沼の文化価値を知るきっかけとなることを願っています。

里山の暮らしを支えてきた沼

池袋から電車で1時間。国営武蔵丘陵森林公園のある滑川町は、関東一、沼の多い町です。大小合わせて約200。その2割の沼が森林公園内にあります。これらの沼はすべて、田んぼに水を引くために人工的に造られた「ため池」。丘陵地に特徴的な「谷津（やつ）」と呼ばれる地形を活かし、また、粘土や赤松など、地元で豊富にある材料を使って造られました。沼が造られた時期は明らかになっていませんが、古くは古墳時代の頃、遅くとも江戸時代の初め頃（今から約400年前）には、「沼水による米づくりのシステム」が完成していました。

沼は、この地域で本格的な米作りが始まって以来、ずっと人々の暮らしを支えてきた、まさに「生命線」の役割を担ってきたというわけです。今なお、滑川町内にある水田の約8割が沼水に依存していることが何よりその証です。

◆同時開催イベント◆ ※順序不同

・沼の魚展示、タッチングプール

公園の沼に生息する魚などを見たり触ったりできるよ！

時間：10：00～15：00

協力：特定非営利活動法人比企自然学校

・うなぎの掴み取り

つかまえたうなぎは持って帰れるよ！（1人1匹）

時間：12：20～12：25 ＊先着50名（受付11：20～）

協力：特定非営利活動法人比企自然学校

※お持ち帰り袋をご持参下さい

・比企丘陵農業遺産PR

比企丘陵地の伝統、ため池農法で作られた「谷津田米」の試食

時間：11：00～ ＊先着100名

協力：比企丘陵農業遺産推進協議会

・和紙のオリジナルハガキ作り

東秩父村の伝統品、和紙を使ったハガキ作りを実施

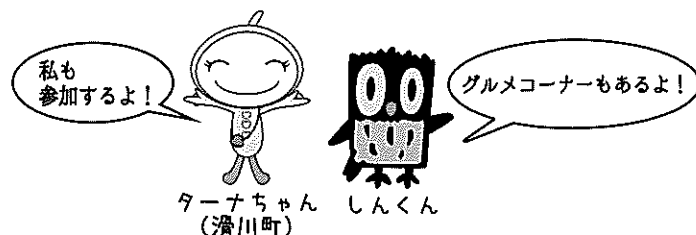
時間：10：00～15：00

協力：東秩父村和紙の里

・ピース製合、木工、おもちゃなどの販売コーナー

時間：10：00～15：00

協力：生活介護事業所たけのこ



内容は予告なく変更する場合がございます。